

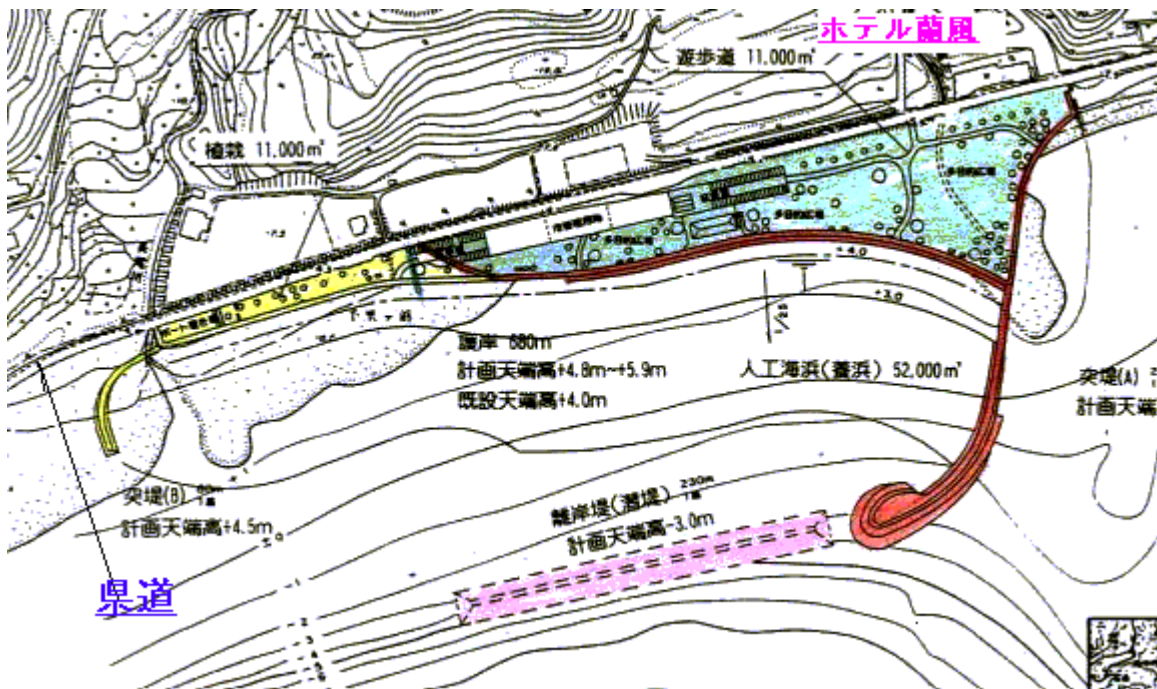
千里ヶ浜海岸環境整備事業

2004年10月26日更新

当会では「海浜植物群落を埋めて、陸上の公園することが、どうして海岸環境整備事業になるのか」との意見を、見直しを(平成10年10月20日付けで要望していました。)求めています。

このほどようやく、海浜植物群落が残ることになりました。

埋め立て予定だった、黄色い部分(海浜植物群落)がそのまま残されることになりました。



これまでの経過

当会では「千里ヶ浜海岸環境整備事業」が逆に貴重な海浜植物群落(ハマゴウ・コウボウムギ)を破壊するとして、県北振興局に計画の見直しと海浜植物が生存出来るための配慮を平成10年10月20日付けで要望しました。

このほど事業の見直しについての再度要望(2000年6月1日付け)すると共に質問状を送付しました。

< 要望と質問の内容 >

千里ヶ浜ではその後の調査によって、種子島を南限とし日本海側では福岡県・石川県、太平洋側では和歌山県・三重県・北海道室蘭など数カ所に採集記録が点在するだけの、分布が極限された昆虫「ツヤマハマベエンマムシ(エンマムシ科)」が記録されています。また、海浜植物と結びつきが非常に強い昆虫であるハマヒョウタンゴミムシダマシ(ゴミムシダマシ科)・スナサビキコリ(コメツキムシ科)が生息していることがわかりました。いずれも海浜植物の根際や打ち上げられた海草の下などに生息しています。

さて、長崎県環境基本条例が平成9年10月に施策し実施されましたが、この条例に基づき、環境基本計画が平成12年1月に完成し、長崎県の環境保全に対する基本的な姿勢が示されました。

環境基本計画では、第3章に環境配慮指針が定められており、この中の第3節では「地域別配慮指針」が定められています。

地域区分の中の「県北地域」を見ると「ハマボウフウ等の砂浜に生育する海浜植物群落…(中略)…の生育環境の保全を図る。」とあり海浜植物群落の保全が明記されています。

これらの海浜植物群落が失われる大きな原因の一つに、親水性の階段があります。砂浜に行くと、無用とも思える階段状の構造物(親水性の階段)を多く見かけますが、この構造物が造られる場所と海浜植物(特にハマボウフウ・コウボウムギ)の生育場所とが重なっているのです。このような公共事業がこれまで多くの海浜植物を絶滅の危機に追いつめたのです。

これらの反省にたって環境基本計画には「これ以上公共事業による浜植物の減少をさせないという、県の強い意志」が現れています。

本事業は護岸工事などとは異なり、海岸の自然保護のための事業です。貴局においては環境基本計画の完成を受け、植物群落への配慮指針が新たに策定されていると思いますが、どのような見直し(配慮)がされたのでしょうか。

もし、見直しが行われていないようであれば、海浜植物や動物にも十分に配慮した均衡のとれた計画となるような事業への転換を強く求めます。

特に以下のことについて回答をお願いします。

1)千里ヶ浜海岸環境整備事業と長崎県環境基本計画との整合性をどうとられますか。

2)「10 県北振田第 292 号」によりますと、国道 383 号線の道路改良計画は海浜の生態系に与える影響を極力排除した方法を求めて見直す余地があるのではないのでしょうか。

3)同じく「10 県北振田第 292 号」によりますと、現存する海浜植物群落を消滅させ「緩衝緑地、ボート置き場、遊歩道」が作られる予定ですが、これも最良の方法とは思えません。十分に検討され、その結果をお知らせ下さい。

4)ツヤマハマベエンマムシの保護についてはどのような対策をとられますか。

文献:松尾照男・長崎県平戸島の甲虫類総目録(2000)・Koganemushi(63).長崎昆虫研究会

5)ここに生育するコウボウムギの県内における現状を十分に調査把握された上で、その保護の方法をお知らせ下さい。

本来ならば面談し、本書面をお渡しすべきですが、当会の活動はすべてボランティアで行われております。時間が取れず郵送させて頂きました。

お忙しい中恐縮ですが、以上のことについて文書で6月末までに回答をお願いいたします。

なお、これは当会だけの問題ではなく広く県民に知らせるべき問題ですから、本質問書、及び回答は各報道機関へ紹介し、当会のホームページにも掲載する旨申し添えます。



平戸市千里ヶ浜(道路側には海浜植物群落がある)これらの群落は道路になったり陸上の公園になり消滅する。これが20億円近いエココスト事業(自然海岸保全事業)。



この海浜植物群落は千里ヶ浜の大きな景観要素となっている。



コウボウムギ:砂浜の開発により県内各地で激減し今では限られた海岸でしか見られない。



ハマゴウ:全国的に減少の傾向にあるため、環境庁では重点調査種として分布調査を行っている。

ハマヒルガオ・ハマエンドウ・ハマオモト・コウボウシバ・ハマダイコンなど、他にも多くの海浜植物が生育している。

自然の状態を生かし、海浜植物園として整備すれば、千里ヶ浜の魅力が倍増すると私達は思うのですが。

県北振興局田平土木事務所では、当会の申し入れを受け海浜植物の保全のために、当初の計画を変更する必要があり平戸市と協議、さらに地域住民に説明を行い、工事縮小の同意を得たそうです。

今後は、波よけの堤防が(既存の堤防を整備している)出来た時点で、モニタリング調査を行い、海浜浸食と植物に影響を与えない部分の特定を行い出来るだけ、海浜植物を残す努力を行うとのことです。

十分な検討が行われていますので、モニタリングの調査の結果が、海浜植物にとってよい結果となればと願っています。